

# 東京

「其の目」暮らし

＝ドイツ編＝



## D・I・Yの国 その2

春を呼び込むお祭り「フアツシング」が今年もありました。外の温度計はマイナス7度で気温が低いため先週末の雪が溶けずに粉雪のまま残っており、風で飛ばされた雪が顔に当たって一段と寒い。ドイツの春はまだまだ先のようにです。

さて壊れたシャッターのその後です。大家さんから「シャッターの収納部を開けてベルトの状態を確認するように。ゆるんでいたらバネを締め直す。ベルトが切れていたら新しいのと交換してください」という指示を受けました。「え？ 業者さんを手配してくれないの？ ドイツではシャッターも自分たちで修理するんや」と思いましたがもう一度修理にチャレンジをしました。回転軸が一部ははずれるのですが、動かせそうな方向がセメントで封をされていてそれ以上動かすことが出来ず外に取り出せません。インターネットで調べたのですがよく分からず「やっぱり業者さんに来てもらわなアカンかなあ」と旦那さんと話していました。そしてやはり自分たちでは対処できないので業者さんを手配して貰えるように大家さんにお願ひし、2日ほど経ったある日のこと。休暇中で業者さんとも連絡が取れないし、きつと修理代も高いんだろなあと話ながら、ダメかもしれないけど、出来るだけ頑張ってみようと言うことになりました。ホームセンターに行けば構造が分かるかもしれないので、近所にあるホームセンターに行きました。ですが、そこにもシャッターの部品は置いていても構造を説明したものはありませんでした。替えのベルトを見ても普通のベルトで引っかける場所も何もありません。と言うことは引っかける場所はシャッター本体の方にあるのではないかと、もう一度試すことにしました。狭いところにも腕が入りやすいのと足場の都合で今度は私の出番です。頭が半分しか入らないので手探りでサビだらけの部品を確認します。何があるか見えないのでドキドキしながら探っていました。そして爪の先がネジ穴のようなくぼみに引っかかったのです。試しにマイナスドライバーで回すと見事にはずれたのです。仕組みさえ分かっていたら簡単にできる事なのと言われそうですが、実際目の当たりにすると「この狭い空間で何かするなんて専門家でしか無理」と思ってしまったのです。翌日、ホームセンターに行つてベルトを購入し同じように取り付けて完成。シャッターは元に戻りました。ケチな話ですが、出費はベルト代の3・8ユーロのみ。道具は家にあったマイナストライバーだけ。「たいした出費にならずに良かったねー。頑張



無事、修理完了しました！

れば出来るやん」と言いつつ、大家さんに無事に付け替えが出来たことを報告して騒動が収まったのです。こうして暖房に続きシャッターの修理を覚えることが出来ました。色々経験できるのは良いことですが、ひどいトラブルはあまり経験したくないなあというのが本音です。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞